別記様式（第４条関係）

会　　議　　録

会議の名称	平成 30 年度第１回宍粟市地域包括支援センター運営協議会 及び地域ケア推進会議	
開催日時	平成 30 年６月 26 日（火）　13：30～15：10	
開催場所	宍粟市役所北庁舎４階　401 会議室	
議長（委員長・会長） 氏　　名	垣尾会長	
委員 氏　　名	（出席者） 舩曳委員、千本委員、栗林委員、森元委員、 名畑委員、堀田委員、高田委員、縣委員、 春名委員、大路委員、上田委員、上月委員	（欠席者） 伊藤委員、高田委員、 福原委員、西川委員
事務局 氏　　名	（健康福祉部）　世良部長、大谷次長、田中次長 （一宮保健福祉課）栗山副課長、 （波賀保健福祉課）藤井課長、大砂主任保健師 （千種保健福祉課）大砂課長、菅谷係長 （介護福祉課）　小椋課長、有元副課長、包括支援係木村係長、 坂口主任保健師、高田主任保健師、中川主事	
傍聴人数	０人	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	公開・非公開	（非公開の理由）
決定事項	（議題及び決定事項） １．宍粟市地域包括支援センター運営協議会 （１）　平成 29 年度地域包括支援センター事業実績について （２）　平成 30 年度地域包括支援センターの運営について 承認 ２．地域ケア推進会議 地域課題への取り組みの検討について（意見交換）	
会議経過	別紙のとおり	
会議資料等	別紙のとおり	
議事録の確認 （記名押印）	（委員長等） ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞	

（会議の経過）

発言者	課題・発言内容
	１．開会 ２．あいさつ ３．宍粟市地域包括支援センター運営協議会 （1） 平成 29 年度地域包括支援センター事業実績について （資料１） （2） 平成 30 年度地域包括支援センターの運営について （資料２） 事務局より説明 承認 ４．地域ケア推進会議 事務局より前回の地域ケア推進会議の振り返りと進め方の説明（資料３）
A委員	何が大事なのかは分かっているが、それができない人が孤立してしまう。 本人や家族の意識を変えていくのは大変だが地域の中で支えることが必要。 家族が遠方な場合、家族の帰省時に連絡をもらえたらこちらも連絡をとりやすい。 帰省時に合わせて病院受診すると、本人の普段の様子が分かりやすい。 大事なのは周りとの顔の見える関係をつくること。
B委員	地域差はあるが、昔と違うのは近隣とのつながりがうすくなっていること。 長い間電気がつかない、鍵がかかっている、と心配になり子どもに連絡を取ると、実は子ども宅で生活していたということが分かった。 声のかけ合いが大事ということが、本人たちの意識としてあるかどうか。 そうでなければ、いざ何か起こったときに声をかけてもらえなくなる。 若い者は日中家にいない。高齢者同士のつながりが大事。 サロンや喫茶に出てきてもらうように声かけするが、参加しない人は参加しない。その人にどうやって参加してもらうかが地域の課題。
C委員	仲のいい少人数でグループをつくり、ひとり暮らしの高齢者を呼んで集まっているところもある。
D委員	何かに興味があり、きっかけや共通の話題があれば、大人数ではなく強制的でないお隣同士でできることでよいのではないか。コミュニケーションが大事。

Ｅ委員	参加者が固定しマンネリ化が課題。きっかけづくり、声かけなど地域のつながりづくりが大事。通いの場、集いの場がいろんなところでできれば、つながりづくりにつながる。
Ｆ委員	自治会ではいき百体操の後、次のサロンのお知らせをする。 来る人が固定してしまうと余計に行きづらくなる。 来られない人は迎えにいくと声かけする。 年間のサロンの様子をスライド作成し、自治会内みんなで見ている。 自治会内で見守りや声かけが大切なことはよく分かっている。 しかし本当に困っている人への支援を具体的にどうしたらいいのか。
事務局	個別への対応として地域ケア個別会議で話し合う機会を設けている。 生活の中で知っていることを持ち寄り一緒に考える機会が必要。 自分たちの問題として捉え考えられるように、それぞれの自治会で話し合う場が福祉連絡会の中でできればと思う。
Ｇ委員	認知症であることを家族が隠そうとする。恥ずかしくないことだと自覚できるよう、啓発をしてほしい。 オープンにすることで家族にとって介護がしやすくなり、助けられ、楽になる。
Ｈ委員	家族や近隣者も、いき百体操やふれあい喫茶などいいことは参加しよう、続けていこうと背中を押しすすめていける宍粟市になればと思う。
	５．その他 宍粟市における地域医療推進のための基本方針
	６．閉会